T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	日本における歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組み
Title(English)	
著者(和文)	香月歩
Author(English)	Ayumi Katsuki
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10522号, 授与年月日:2017年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:奥山 信一,屋井 鉄雄,那須 聖,藤田 康仁,十代田 朗
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10522号, Conferred date:2017/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（博士課程）

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第　　号		学位申請者氏名	香月　歩	
論文審査 審 査 員		氏　名	職　名	氏　名	職　名
	主査	奥山　信一	教授	十代田　朗	准教授
	審査員	屋井　鉄雄	教授		
		那須　聖	准教授		
		藤田　康仁	准教授		

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は、「日本における歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組み」と題し、以下の６章から構成されている。

第１章「序論」では、研究の目的、背景、資料、方法、および論文の構成を位置づけた上で、本論文が、既存の歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みを検討するものであり、それに際して江戸、京都という我国を代表する歴史都市を転用の対象とすることの優位性、およびそうした転用を示す街の行政や観光協会により制作される観光パンフレットを資料とすることの妥当性を、イメージ形成の枠組みに関与するメディアの役割を論じることで位置づけている。そして、資料とした街の価値の意味内容とその階層構造を捉えるとともに、それらを総合的に比較・検討することで、日本における歴史的価値の転用による街のイメージ形成の枠組みを明らかにすることが本論文の目的であることを述べている。

第２章「江戸を転用する街の価値の意味内容」では、江戸という都市に関連する事柄を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から、街の価値を構成する要素である価値対象と、価値対象の歴史性を形容する歴史属性を抽出した上で、複数抽出される価値対象の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合と、言語表現に示される街全体の履歴との関係を検討している。その結果、江戸を転用する街の価値の意味内容は、１つの価値対象を基点とした階層関係により集約的に構造化されるものと、複数の価値対象を基点とした階層関係により分散的に構造化されるもので位置づけられ、特に価値の意味内容が集約的に構造化される資料において宿場町や城下町といった近世との関連性の強い履歴が示される傾向にあることを明らかにしている。

第３章「京都を転用する街の価値の意味内容」では、京都という都市に関連する事柄を転用する街の観光パンフレットを資料に、その言語表現から、街の価値を構成する要素である価値対象と、価値対象の歴史性を形容する歴史属性を抽出した上で、複数抽出される価値対象の意味的な階層関係をモデル化し、それらの資料単位での集合と、対象地の地理的な分布との関係を検討している。その結果、京都を転用する街の価値の意味内容は、街全体の特性を示す要素を基点とした階層関係により構造化されるものと、街の空間を構成する要素を基点とした階層関係により構造化されるもので位置づけられ、京都より東側に位置する資料は街全体の特性を示す要素が、京都より西側に位置する資料は空間を構成する要素が、それぞれ階層関係の基点となる傾向を明らかにしている。

第４章「歴史的価値を転用する街の価値の階層構造」では、第２章および第３章で得られた価値対象の意味的な階層関係を示すモデルについて、その階層構造の細分化に関する深度と集中の度合いから位置づけた上で、それらの資料単位での集合を検討している。その結果、歴史的価値を転用する街の価値の階層構造は、単一の場合と複数の場合の双方がみられ、さらに複数の場合は主従と並列の２種の関係図式で捉えられることを示した上で、江戸を転用する街では京都を転用する街に比べて、単一の階層構造では細分化の集中が、複数の階層構造では並列の関係図式がそれぞれ多い傾向を明らかにしている。

第５章「歴史的価値を転用する街の価値の特性」では、第２章から第４章で得られた知見の比較から、江戸を転用する街と京都を転用する街の双方に共通する内容および独自にみられる内容を検討している。その結果、双方の街の独自性を示す価値の内容は、江戸を転用する街では空間や生活を基点とした階層関係により構造化されるもの、京都を転用する街では街全体の特性や周縁の自然環境を基点とした階層関係により構造化されるものであり、これより双方の都市の転用におけるイメージ形成の枠組みの特徴として、江戸を転用する街では江戸の断片的な記憶を想起させる価値が街の中の具体的な要素と関連付けて示されるのに対し、京都を転用する街では根拠が特定されない漠としたイメージによって街を俯瞰的に捉える視点から価値が示されるという対比的な傾向を明らかにしている。

第６章「結論」では、各章で得られた知見を総括している。

これを要するに、本論文は、日本における歴史的価値を転用する街のイメージ形成の枠組みについて、江戸および京都という都市に関連する事柄に着目し、メディアの言語表現に提示された街の価値の意味内容と階層構造を検討することで、日本各地に点在する観光都市の魅力が、その街独自の特性だけでなく、人々に共有された歴史的価値を内在する事柄との関係で情報化されている状況を記号学的視点から解明したもので、メディアによる情報化の波及が予想される今後の都市認識論を観光計画学的視点から展開させる有益な指標を提示すると共に、そうした現代的視点を見据えた建築意匠論の創造が求められる建築設計分野での方法論を批評的に構築するための理論的基盤を提出していることから、工学上および建築学上貢献するところが大きい。よって本論文は、博士（工学）の学位論文として十分な価値があるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。